

## 第13回 環境振動評価小委員会 議事録(案)

A. 日 時 2012年2月20日 月曜日 17:30~19:30

B. 場 所 建築会館 会議室

C. 出席者 益田主査、他9名

D. 提出資料(提出委員名敬称略)

No. 13-0 第12回環境振動評価小委員会議事録(案)

No. 13-1 「人間工学ハンドブック」にみる振動感覚に関する記載について

No. 13-2 環境振動評価小委員会 WT 要望と提案

No. 13-3 気象庁震度階級関連解説表

No. 13-4 熊本3号津奈木トンネル新設工事の消音対策について

No. 13-5 環境振動評価小委員会 評価 WT 活動報告

E. 議事内容

1. 議事録確認(資料13-0)

◇ 承認された

2. 議論

1) 資料No. 13-1 「人間工学ハンドブック」にみる振動感覚に関する記載について説明

◇ 人間工学ブックハンドブック(改定前の版)には、周波数ごとに振動への感覚表現が示されている

→ 低周波数(13.3Hz以下)では「ドッド」「ユラユラ」など、高周波数(25.0~33.3Hz)では「ゴトゴト」「ブルブル」など

→ 音響(遮音)分野でも擬音を用いた表現で騒音種別を簡便に表記することがある

→ 高周波数になると濁音が付く傾向がある?

◇ 建築分野への応用について

→ 日本女子大学石川研究室でも、同様の研究がなされている

→ 建物全体の表現と、二次部材的なものや什器では表現が変化するものと思われる

→ 周波数ごとの表現のみならず、大きさ(振幅)側の表現の差別化も重要

2) 資料No. 13-2 環境振動評価小委員会 WT 要望と提案について説明

◇ 4つのWTより活動に関する要望と提案を提出

→ 各WTの「目的」「活動結果・経緯」「要望と提案」「その他」を規定のフォーマットにて提出

→ これまでの活動報告に加え、提出された資料等のレジュメがあることが望ましい

→ 提案に至った経緯や、途中で削除・訂正が行われた内容等を含むことが望ましい

3) 資料No. 13-3 気象庁震度階級関連解説について説明

◇ 震度階ごとの各種応答

→ 震度階ごとに「人間」「屋内の状況」「屋外の状況」「木造建築物」「鉄筋コンクリート造建築物」「ライフライン」「地盤・斜面」にて想定される応答が示されている

→ また、対応する加速度の目安(参考値)も併せて示されている

→ 環境振動として生じる動揺・振動に関しても同目安を参考に応答の様子を検証していく

- 4) 資料 No. 13-1 熊本 3 号津奈木トンネル新設工事の消音対策について説明
    - ◇ 坑口で発破音を相殺して静けさ確保
      - 消音器を用いて騒音（トンネル掘削時の発破）の制御を行う機構
      - 発生した低周波音の逆位相の反射波を利用して騒音の低減を期待するもの
  - 5) 資料 No. 13-1 環境振動評価小委員会 評価 WT 活動報告について説明
    - ◇ これまでの活動内容
      - WT 会議を 4 回開催（うち 3 回は「居住性能評価指針検討 WG」との合同会議
      - 評価のあり方や評価指針に関する意見交換が行われた
      - 現在は、評価関連の資料の収集・整理を行なっている
    - ◇ 来年度までの最終目標
      - 評価関連資料の整理、これまでに多くの資料の収集を行ったので来年度はそれらの資料の整理を行う
      - 評価指針の検討、今後評価指針の枠組みについて議論を行う予定である
  - 6) 来年度（本小委員会の最終年度）に向けて今後の展開を検討
    - ◇ 来年度末までの最終目標
      - 最終成果物を提出する
      - 成果物とは、シンポジウムの企画・大会発表・技術報告集投稿・黄表紙投稿・成果発表会など
      - 本小委員会としては、シンポジウムの開催を目指し活動を行うこととする
3. 次回以降の課題
- ◇ 4 つの WT にて活動を行い、その結果を小委員会にて報告を行うこと
    - 各 WT とともに来年度末までの最終目標を検討
    - 後日主査より送られるフォーマット（資料 No. 13-2）に沿って報告を行うこと
4. 次回開催予定
- ◇ 2012 年 5 月 11 日（金）、15：30～ 本会会議室
5. 他（連絡事項等）
- ◇ 無し